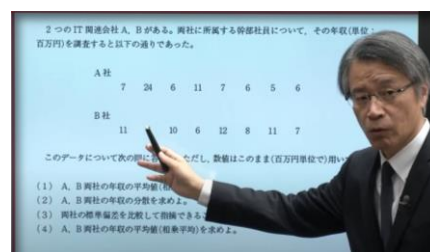


代ゼミのリカレント講座『統計検定[®]で学ぶ！統計学』が 3/1(水)増補改訂でさらに学びやすく！

学校法人高宮学園 代々木ゼミナール（本部：東京都渋谷区／理事長：高宮英郎）は、映像講座『統計検定[®]で学ぶ！統計学シリーズ 増補改訂版』を2023年3月1日にリリースいたします。2016年より社会人を中心に好評をいただいている同シリーズに、統計検定[®]の近年の過去問から厳選した38問とオリジナル解説を追加。身近な話題から統計学の本質を学ぶスタイルはそのままに、より充実した内容でデータサイエンスの学習をサポートします。



西岡 康夫 講師
(代ゼミ教育総研 主幹研究員)

講座概要(統計検定[®]で学ぶ！統計学シリーズ)

	統計検定 [®] で学ぶ！高校生からの統計学	統計検定 [®] で学ぶ！統計学
統計検定 [®] 該当級	3級対応	2級対応
レベル	高校数学の初学者 高校数学ⅠAから学び直したい方	高校数学ⅡB履修済の方
映像講座で扱う内容	本講座：記述統計・推測統計序論 オプション講座：確率	分野Ⅰ：記述統計 分野Ⅱ：確率・確率分布 分野Ⅲ：推測統計
料金(税込)(教材費込)	本講座：8,800円 本講座+オプション講座：13,200円	1分野：13,200円 3分野：33,000円
時間	本講座：約45分×8回 オプション講座：約45分×4回 +約80分(増補改訂分)	1分野：約60-90分×8回 +約120分(増補改訂分)
特長	統計検定 [®] の過去問から特に学習効果の高い問題を厳選 例題提示⇒講義⇒問題演習&解説の3ステップで知識の確実な定着を図ります	
受講方法	代ゼミの映像受講サービス(モバサテ)を通じて視聴 スマホ・PC・タブレット端末にて視聴可、視聴回数制限なし(お申込年度内)	
お申込	代ゼミ教育総研 WEB サイトよりお申し込みください ※3月1日(水)より増補改訂情報を公開、受付開始 URL: https://www.yozemi-eri.com/career/license/statistics/	

いま、なぜ統計学が必要とされているのか

これまで統計学は、大学生や大人が必要とする学問というイメージが強かったかもしれませんが、しかしながら、2020年度から順次実施されている新学習指導要領では、中学校で「累積度数」「四分位範囲」「箱ひげ図」といった統計リテラシーを身につけるために必要な単元が追加されています。高校では2022年度から必修化された『情報Ⅰ』でプログラミングに加え、統計学の基礎やデータ分析の手法を学び、選択科目の『情報Ⅱ』でより詳しくデータサイエンスについて学習します。

また、この新学習指導要領に対応した令和7年度(2025年度)大学入学共通テストでは、『数学Ⅰ』で「データの分析」が範囲に含まれ、『数学Ⅱ・数学B・数学C』では「統計的な推測」が選択科目の一つとなっています。学校現場や大学入試でも、統計の基本的な考えを理解するに留まらず、それをを用いてデータを分析したり、データから導き出される傾向を考察・活用することが求められているのです。

いま、なぜこんなにも統計学が必要とされているのでしょうか。

ビッグデータの時代が到来し、統計やデータによって得られる情報は非常に有用な反面、見せ方や使い方によっては、誤認を誘発する可能性があります。見た目に分かりやすい数字が独り歩きし、時にはまやかしの手段として用いられることさえあります。

データや情報の妥当性・正確性を検証する力を得て、ビッグデータを鵜呑みにせず、取捨選択し自らの道具として活用するために、統計学の学びが重視されているのです。

本講座では初学者の方や文系の方が抵抗感なく統計学を学べるよう、身近な話題(グルメサイトの★の数や平均年収など)で統計学がどのように扱われるかを学びます。実社会の具体的な事象に対するデータを元に、分かりにくい用語やグラフも代ゼミ実力派講師が丁寧に解説することで、統計学の本質を捉えることができる内容になっています。

講師からのメッセージ

統計学はビッグデータの時代を生き抜くための『データリテラシー』

3年以上にわたり世界を混乱させているコロナ禍は、映像として把握しやすい天災や戦争とは異なり、医療現場の緊迫した場面を除けばもっぱら数値(データ)として可視化されました。

日々の感染者数に注目が集まり、陽性率などという用語が市民権を得る一方で、それらの数値が持つ意味を解釈する『データリテラシー』の奥深さを改めて認識させられたと感じます。

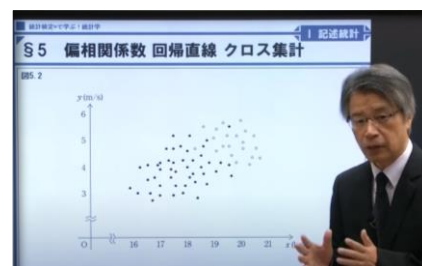
そもそもデータリテラシーは今世紀になって急に登場して来た訳ではなく、広義には古代のローマ帝国や戦国時代の日本などでも重要視されてきました。ただ、為政者だけではなく万人が身につけるべき素養であると認識されてきた点が以前とは異なるのです。それは公教育の現場にも影響を与え、順次『統計』分野のカリキュラムも変化しつつあります。

本講座が準拠する統計検定[®]も、そのような教育課程の変更に対応して出題範囲や内容が変化しています。そこでこの度増補改訂を実施しました。

統計検定[®]に合格することは、この講座の大きな目標ですが、もちろんそれは結果として獲得されるものの一つにしか過ぎません。

例えば、日本語で一括りに「情報」と訳されてしまう‘information’と‘intelligence’ですが、入力側に位置する‘information’を分析・解釈し、そこから‘intelligence’なる有意味な出力を得るのも統計の学びあつてのことです。

ビッグデータの時代を生き抜くためのリベラル・アーツとして、さらには自然科学のみならず、社会科学、人文科学などおよそ科学と称されるもののリング・フランカ(共通言語)として、『データリテラシー』の修得をめざしていきたいと思ひます。



西岡 康夫/Yasuo Nishioka

代ゼミ教育総研 主幹研究員。東京大学工学部卒。

1986年に数学科講師の道をスタートさせ、1999年より代ゼミの教壇に立つ。問題解決の手法として「判断枠組」を提唱し、自らの信念に基づく緻密な授業で約40年に渡り受験生から圧倒的な支持を得ている。

本講座をはじめ、統計学指導のスキルアッププログラム(教員対象)など、論理や統計を重視する新教育制度のオピニオン・リーダーとして活躍している。

<本件に関する報道関係のお問い合わせ先>

担当：代々木ゼミナール広報企画部(加藤・松井)

TEL: 03-3379-5221

E-mail: pr_info[at]yozemi.ac.jp ([at]を@に変えてください。)

代々木ゼミナール Web サイト: <https://www.yozemi.ac.jp/>